

ゆめかたろう カフェ

NEWSLETTER

3月14日(土)の午後、武豊町民会館 ゆめたろうプラザ 2階の情報考房で、TAKETOYO COMMUNITY PARK (通称:タコパ)「まちの交流会たまり」とのコラボ企画で「ゆめかたろうカフェ」を開催しました。参加者は、事務局やスタッフを含めて **30名**でした。

この日、前半は、「場リスタ (場づくりマスター) 講座」のトライアル編で受講者がチームごとに企画・実践した「おためし居場所」の発表会。

後半は、放課後の居場所、若者の居場所などテーマ設定した6テーブルに分かれておしゃべり。途中で2回のテーブルチェンジしながら、多様な参加者と3ラウンドの会話と交流を楽しみました。

おためし居場所トライアル発表会 & ゆめかたろうカフェ

1. おためし居場所トライアル発表会

Eグループ「ぬくぬく」

「ほっと Hot SPACE」

誰が何をしてもいい、ほっとする空間をつくりたい、外と繋がる場所でやりたいね、ということで2月28日16~20時ゆめたろうプラザの和室と外のスペースを使って、テーブルやこたつなどを置いて開催しました。おしゃべりの他に何か作れたらいいねと、ペットボトルでランタンづくりをし、最後に外に飾ったらすごく幻想的でした。

IRUBAさん(A班)が同日開催で、コラボ企画となったため、20名以上が参加。IRUBAさんの集客にすごく助けられました。

この日は風がすごく強く、寒さで震えている方もいましたが、中でも外でもワイワイ楽しそうに過ごしていただき、アンケートでは皆さんから、「満足」が「大変満足」と、うれしい回答をいただきました。

今後は、例えば職場や学校、子ども会、福祉関係など…、メンバーのネットワークを最大限に活かして活動を継続していきたい。会費をいただいて運営していけたらいいなと思っています。



Bグループ「突撃ほっと隊」

「ほっとカフェタイム」

私たちは、10~20代の居場所をつくること、家族と少し距離を置いて自分の気持ちと向き合える時間をつくること、話さずで心のもやもやを言語化すること、春からの新しい環境への不安を和らげることを活動目的としました。そして、図書館で月に2回居場所づくりをされている「ほっとつながるスクエア」とのコラボという形で開催しました。私たちは、会場の中にあったかいドリンクやお菓子の提供と自由に過ごせて気軽に話せるスペースづくりをしました。

当日は、この春から高校に入学する女の子2人が来てソワソワ、ワクワクした気持ちを聞かせてくれ、自分の思っていることを素直に話せる、背中を押す居場所になれたのではないかなと思いました。

聞き役として子どもたちの言葉を大きな紙に書き出していると、途中で22歳の男の子が「僕の話聞いてくれる？」と輪に入り、彼が他の参加者たちにも積極的に話しかけ、会話の輪がどんどん広がっていき、帰る時には「次もやるの？」と聞いてくれました。

今回やってみて、人の話を丁寧に聴くことが、その人の力や積極性を引き出すこと、そして居場所は一人でつくるのではなく、みんなが関わることで自然と生まれるものだと感じました。



Cグループ「たまりんばー's」

「たまりんば〜祈りの浜再生プロジェクト」

私たちは単に海岸を綺麗にする美化だけを目的にしているわけではありません。清掃という協働活動を手段とし、結果として安心して集まれる居場所をつくり出すことを目指しています。

私たちの活動の舞台は、武豊町5号地の海岸。非常に穏やかで可能性に満ちた場所です。活動を始める前は多くの漂流ゴミが散乱していましたが、タカオさんを中心に清掃活動を重ね、本来の美しい浜に近い姿を取り戻しました。

そして、それぞれがまず、このきれいになった浜で夜に波音を聞きながらコーヒーを飲んで静かに過ごしたり、昼間に子どもたちと貝殻やシーグラスを探したり…特別なイベントをするのではなく、ただそこにいたくなる場所として心地よさを体感してみました。

3月7日には全体会を開催。イベントには27名の方に参加いただき、大人も子どもも清掃という作業を楽しみながら、自然な形で交流。幅広い世代が集まり、世代を超えて言葉を交わしました。

今後は月に一度の集まりだけでなく、みんなに開かれた場所にしていきたい。このたまりんばが地域の皆様にとって、いつでも安心して立ち寄れる母港、ホーム的な存在になれるようこれからも

一歩ずつ歩んで参ります!



「IRUBA『居る+場』」

我々は、ボランティアどうし、また幅広い人たちとつながり、交流する場にしたいという思いから、ゆめたろうプラザでモルックと椅子を並べてみんなで交流をする“チェアリング”を実施しました。

この「IRUBA」というネーミングだけで来てくれた人も多かったんじゃないかな、やはりキャッチコピーはすごく大事ななと思いました。

当日は強風でとても寒く、モルックもチェアリングもしてる場合じゃなかったで、各団体の交流ということで、みんなでおしゃべりしながら、大きな紙に、自分たちでやっていることなどを書き出しました。

これをしなくちゃじゃなくて、好きなことやっていいというのが良かった。お互いにお話を聞き合ったり、自分のことを話したり、じゃあ今度行くよとか来てねみたいな会話が自然に生まれて、この中で多分コラボも生まれてくるだろうし、本当にいい場だなと感じました。



「アナログゲームで仲間づくり」

気軽に遊べるアナログゲームで、子どもどうし、大人どうし、そして多世代間の交流を促したいというところを目的にし、こたつを囲んでいろんなゲームを体験しようというテーマで行いました。



大足児童館 2 階の図書室で、3月8日(日)の13時30分～16時30分まで。参加者は、幼児2人、小学生10人、中学生1人で、大人13人の合計26人で楽しむことができました。

今後まずは継続して開催できるようにしていきたい。運営体制、仕組みを整備したい。参加者の多世代化、もう少し広げたいので、声かけ、特に低学年への声かけもしていきたい。他団体とコラボすると多世代がうまくつながるのかなと思うので、できれば連携もしていきたい。当初計画にあった「ゲームマスター制度」もなんとか確立したい！また、長久手にある県の児童総合センターでやっている「アナログカフェ」の視察に行こうかなと思っています！

2.ゆめかたろうカフェ

①放課後の居場所、②若者の居場所、③子育て世代の居場所、④高齢者の居場所、⑤多世代交流の居場所、⑥フリーの6つのテーマを設定したテーブルから、好きなテーブルを選んで3ラウンドのおしゃべりをしました。



3.チェックアウト

投稿アプリを使って「Awareness（気づき、学び、感じたこと）」と「Commitment（それを受けて、私は〇〇を約束します!）」を共有しました。

◆今日のこの時間、この場所こそ「めちゃくちゃ楽しい居場所」でした◆既存の居場所や活動とのコラボは、可能性がとてもある！居場所を作りたい人達一人一人が居場所の種！もっと話したい！◆今の人間関係とかしがらみに関係なく話せる場所がいいのかあ。カッコつけずに自分を出せる所◆おやじの居場所！秘密基地！

◆やってみりゃいい◆カフェで間借り居場所、やってみたい。居場所へのハードルを上回る魅力があることが大事だと感じた！占い、美味しいスイーツ、音楽、頼れる人…色々な魅力があること、斜めの関係が大事かなと思った！◆民間経営の児童館（児童館内の習い事など）。放課後送迎問題はファミサポでも解決できる!? ほか

アンケートより（気づいたこと・発見したこと）

◆場リスタの報告会はそれぞれの活動が素敵でした！◆固く考えずやれることからやってみようと思いました。やらされるのでなくやりたいことをやる居場所。主役はみんなの居場所ということに気づきました ほか

お問い合わせ

武豊町企画部企画政策課

電話：0569-72-1111

☎：kikaku@town.taketoyo.lg.jp